

理科・環境教育助成 成果報告書

第3回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名：三浦 乃莉子 所属：市民ZOOネットワーク

課題名： 作ってみよう！ぼくたちわたしたちのモンキー図鑑

1. 課題の主旨

動物園は、世界各地の様々な動物を観察できる貴重な体験学習の場であり、科学教育・環境教育の場としての活用可能性を秘めている。しかし、単に動物園を訪れるだけでは、種によって異なる行動や生態といった魅力に気付くことは難しい。そこで、少しのヒントを提供して自らの視点や視野を広くする手伝いを行いたい。

本プロジェクトでは、小学校の生徒を参加対象者として、人間に近いといわれるサルを観察し、最終的には参加者がオリジナルのガイドブックを作成する。この作業によって生息地や生活パターンなど、種ごとの相違点を理解し、動物の行動、生態といった動物の多様性への理解を深めることを目的とする。さらに、その中で「どうして？なぜ？」といった疑問を引き出し、人間や人間以外の動物とそれを取り巻く環境について考える機会を提供する。

2. 活動状況

2005年11月からスタッフ14名でプロジェクトを開始し、月1～5回のミーティングを重ね、ワークシート、ツールの内容検討と作成をした。また、ワークショップを実施する千葉県動物公園の下見に行き、事務職・飼育員、小学校との打ち合わせ、動物の観察や撮影を行い、2006年9月13日にリハーサルを実施、その2日後の9月15日にワークショップを開催した。参加者は千葉市立源小学校4年生。午前が1クラス20名、午後が1クラス21名。さらに、1クラスを3班に分け、各班にはスタッフ2名が付き、指導と助言をしながら園内での観察へとプログラムを進行させた。

今回の「サル」は、千葉県動物公園で飼育展示されている中から、特徴が捉えやすく、比較しやすい7種を選び、ゴリラ、チンパンジー、フサオマキザル、フクロテナガザル、ワオキツネザル、マンドリル、ニホンザルのワークシートを各種ごとに作成した。ワークシートの内容はその動物種に特徴的な行動、形態に関連するものを1種が15分程度で書き終わるように工夫した。

当日は、2～3種の観察ができるように時間配分を考え、観察ができなかったワークシートは、後日、参加者自身だけで使用できるように指導をした。

また、ワークショップ後にはより汎用性の高いプログラムへ発展させるために各地の動物園のサル類担当者との意見交換を行った。

3. 結果

動物園の動物は、普段、「見た」という確認をただけで通り過ぎて行く。しかし、動物のポイントを決めて観察してみると、自分で新しい発見ができることを体験してもらった。結果は、ワークシートの書き込みに表れ、ひとり一人が自分だけの「図鑑」をしっかりと作ってくれた。

印象的なのはフサオマキザルの群れ家族を観察中、「自分たちの家族と似ているところや、彼らの表情、個体の違いに気付いて」くれた子がいたことである。わずか10分程度の観察でも、理解しようとする気持ちを高めれば、得られる結果も多くなる証ではないだろうか。

現代では、正解にばかりこだわってしまうことがある。だが、生きている動物には、個体格差もあり、例外もある。だから、特別に正解を用意しなくても良いのだというような、柔軟性を持って対処することに繋げていけたらいいと思った。

今回、作成、用意したツールは、ワオキツネザルのしっぽのぬいぐるみ、フクロテナガザルの音声とフクロが膨らんでいる写真である。しっぽは、担当飼育員さんが手に持ち、ワオキツネザルのしっぽの動きを再現してくれた。周りには、子どもたちが集まり、その注目度は上昇していった。ただの話だけではなく、触れる「物」があるのは体験の促進につながった。音声と写真は、動物が実際には、鳴かない場合を想定して用意した。幸いなことに、当日はフクロテナガザルが良く鳴き、良く動いてくれたので、使用しないで済んだが、用意しておいたことで実施する方には安心感があった。

参加した小学生だけでなく、スタッフであるわたしたちにも、大変良い勉強になった。将来、動物や動物園、さらには教育関係に進むであろう学生も多く参加していたので、準備から実施、当日の話術までさまざまな貴重な体験ができた。

4. 今後の課題と発展

ワークシートやテキストを千葉市動物公園専用として作成してしまった。今後、市民ZOOネットワークのWeb上で公開する際には、再チェックが必要になるだろう。テキストもワークシートに書き込みをする人用と指導者用の2種類作ることが理想かもしれない。今後の課題としたい。

ワークショップを動物園で実施するには、飼育員との協力が必要である。これは、事前に打ち合わせをして、わたしたちが参加者に伝えたいことを正確に知るためには不可欠だろう。また、わたしたちの活動を飼育員の方に知ってもらい、外部との協働を考える上でも重要なことだ。

より良い内容にしていくために、情報は随時公開をしていく。ワークシートもテキストもオープンにすることで、誰でも、どこの動物園でも自由に使い、その使用者が、さらに良い内容に改善されていくことをわたしたちは希望している。

5. 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など

わたしたちの活動をご理解いただき、支援をしていただいたことに感謝いたします。「継続は力なり」と申します。今後も貴財団がより良い社会を作るために「教育」「文化」の分野に力を発揮されることを期待しております。ありがとうございました。